

## Ⅱ 子どもの将来像

子どもには「これからの社会」と「勤労観」、「自分のなりたい人間像」、大人には「なってほしい人間像」について聞くことで、描いている子どもの将来像について把握することとした。

調査の結果、中高生は、これからの世の中を「今より悪くなっている」と思っている割合が高く、「関心がない」も小中高と学校段階が上がるにつれ増加している。

また、勤労観については小中高と学校段階が上がるにつれ、「生きがいや、やりがい」といった現実的な割合が高くなり、「夢や希望」は低くなっている。

こうした中で、なってほしい大人像として、教員や学校評議員は「人を思いやる」「ルールやマナーを守る」を、保護者は「困難を乗り越える」をそれぞれ多く回答しており、前者は社会性を、後者は社会で生きる力を重視した結果となっている。

### Ⅱ-1 これからの世の中

「自分が大人になった頃の世の中はどのようなになっているか」を子どもに聞いたところ、小学生では「今より良くなっている」と回答した割合が高いが、中高生の約半数は「今より悪くなっている」と回答している。

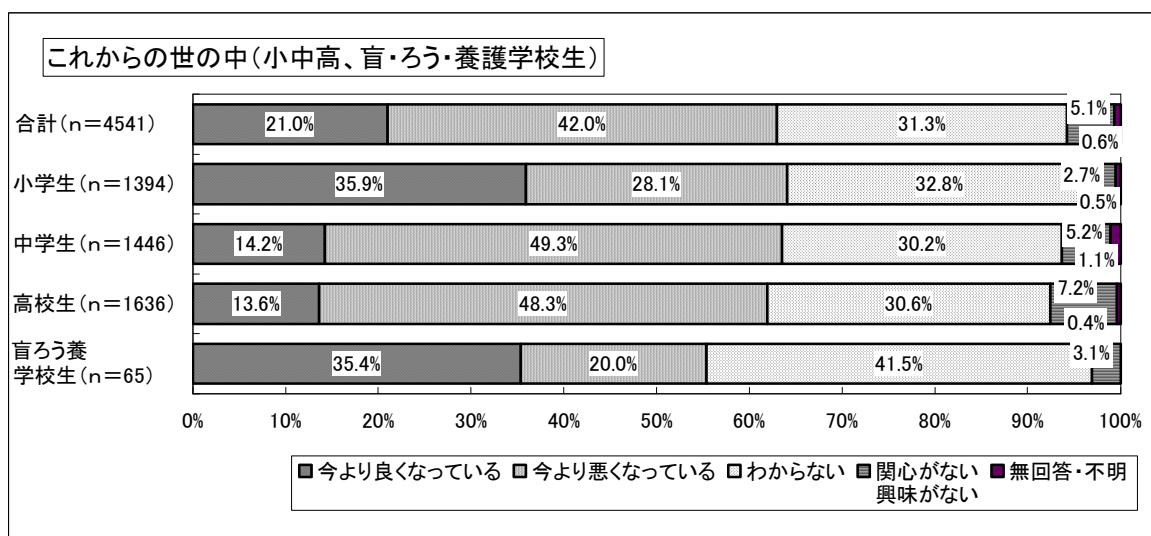
小学生は「今より良くなっている」を回答した児童が35.9%となっており、「今より悪くなっている」(28.1%)より割合が高い。

一方、中高生の5割近い生徒が「今より悪くなっている」(中学生49.3%、高校生48.3%)と回答しており、「今より良くなっている」を回答した生徒は、中学生14.2%、高校生13.6%と低い割合となっている。

また、「関心がない」を回答した小中高生の割合は、小学生が2.7%、中学生が5.2%、高校生が7.2%となっており、小中高と学校段階が上がるると共に割合が増加している。

盲・ろう・養護学校生は小学生とほぼ同じ割合での回答となっている。(図Ⅱ-1参照)

図Ⅱ-1



## Ⅱ-2 どのような大人になりたいか

「どのような大人になりたいか」を子どもに聞いたところ、小中高、盲・ろう・養護学校生とも「たくさんの友だちや仲間がいる人」、「自分らしさをもっている人」、「人を思いやる心を持っている人」、を回答した割合が高くなっている。

「たくさんの友だちや仲間がいる人」は、小学生 49.1%、中学生 52.5%、高校生 51.4%、盲・ろう・養護学校生 26.2%、「自分らしさをもっている人」は、小学生 37.9%、中学生 50.6%、高校生 58.4%、盲・ろう・養護学校生 53.8%、「人を思いやる心を持っている人」は、小学生 37.3%、中学生 44.5%、高校生 51.0%、盲・ろう・養護学校生 52.3%となっている。

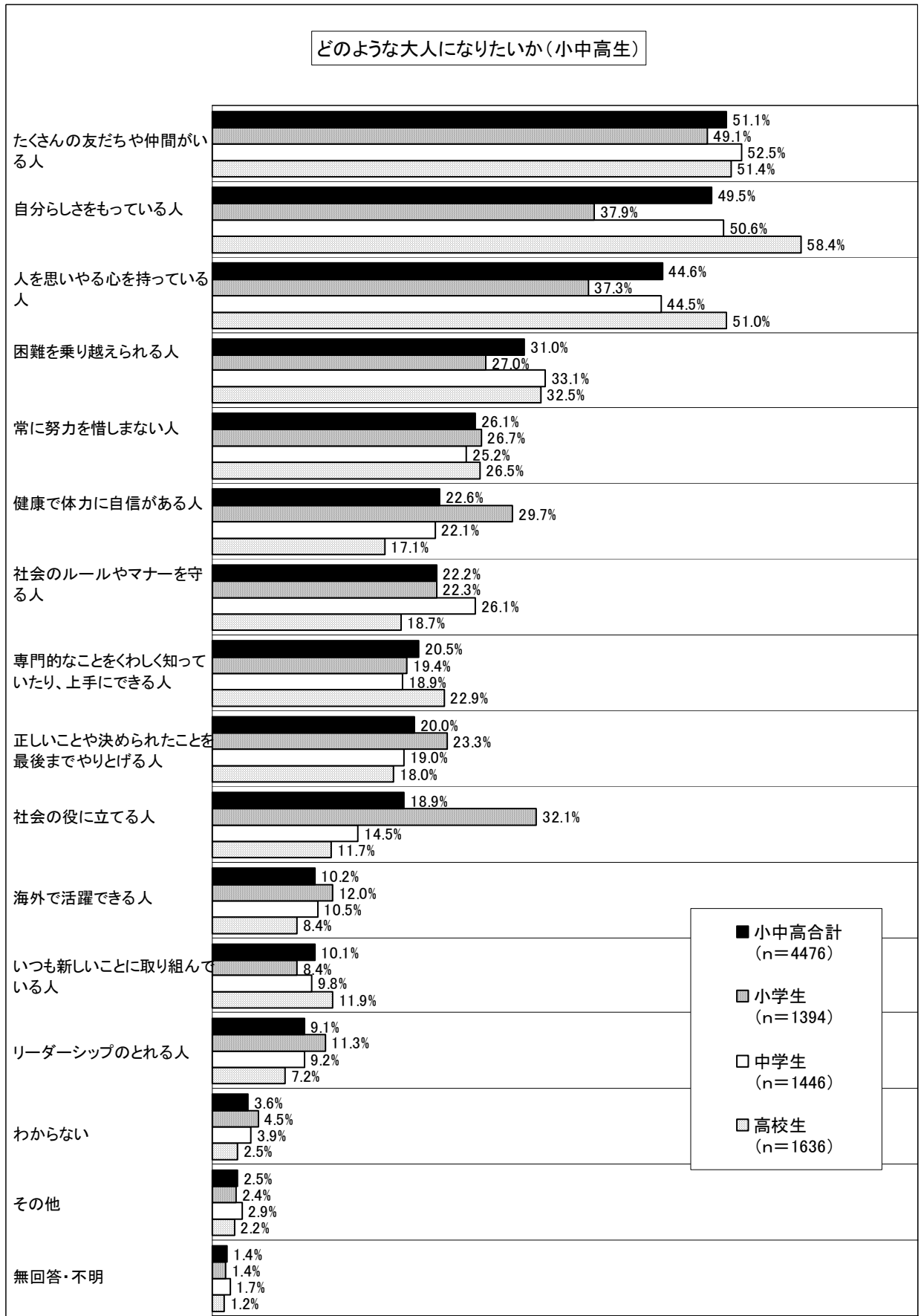
小学生で「人の役に立てる人」を回答した児童は 32.1%となっているが、中学生になると 14.5%、高校生では、11.7%となり、小学生の半分以下の割合となっている。

32.3%の盲・ろう・養護学校生が「正しいことを最後までやりとげる人」を回答しているが、小学生では 23.3%、中学生が 19.0%、高校生が 18.0%となっており、比較すると高い割合となっている。(表Ⅱ-2、図Ⅱ-2 参照)

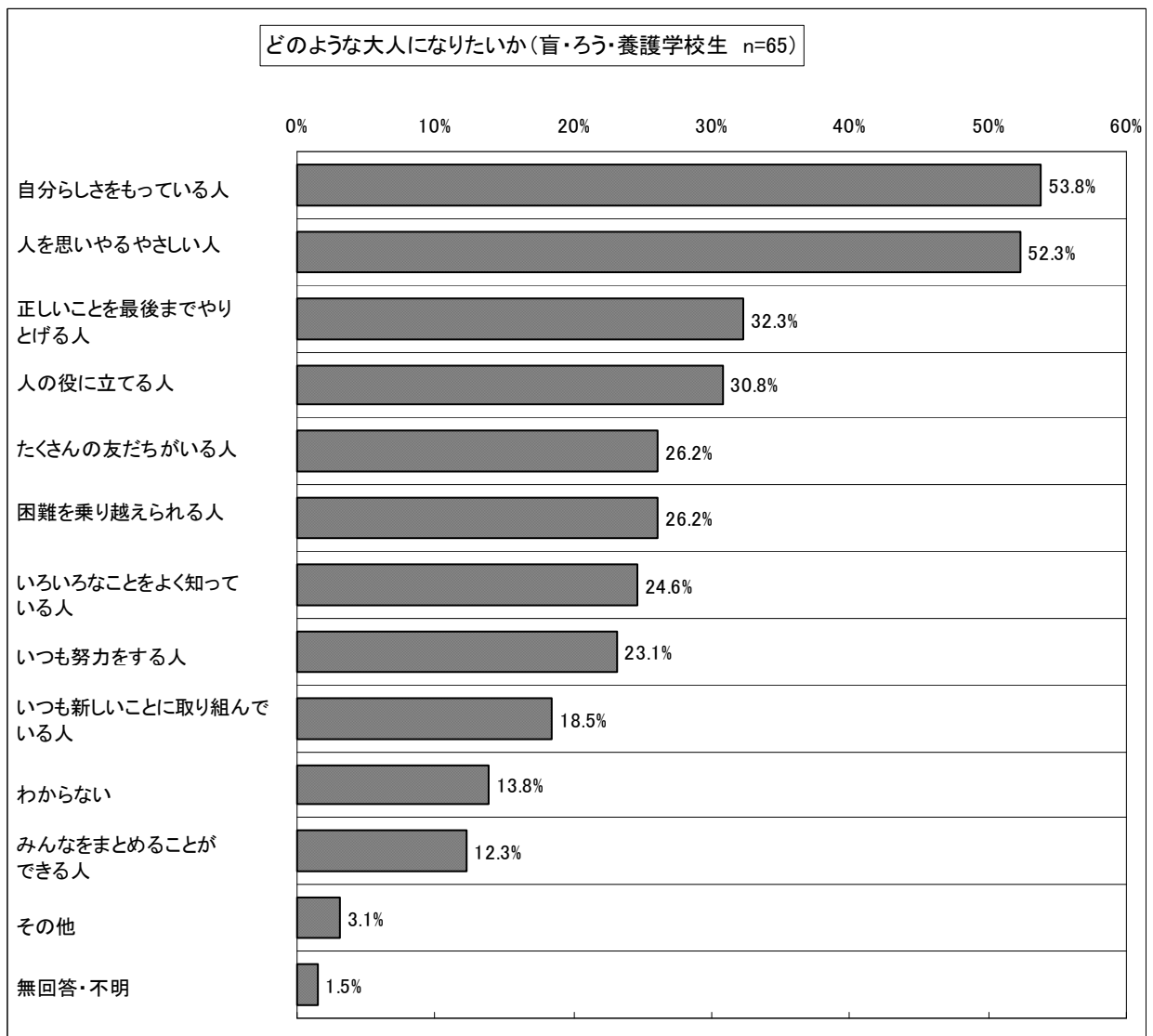
表Ⅱ-2 どのような大人になりたいか (上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	盲・ろう・養護学校生
1位	たくさんの友だちや仲間がいる人 (49.1%)	たくさんの友だちや仲間がいる人 (52.5%)	自分らしさをもっている人 (58.4%)	自分らしさをもっている人 (53.8%)
2位	自分らしさをもっている人 (37.9%)	自分らしさをもっている人 (50.6%)	たくさんの友だちや仲間がいる人 (51.4%)	人を思いやるやさしい人 (52.3%)
3位	人を思いやる心を持っている人 (37.3%)	人を思いやる心を持っている人 (44.5%)	人を思いやる心を持っている人 (51.0%)	正しいことを最後までやりとげる人 (32.3%)
4位	人の役に立てる人 (32.1%)	困難を乗り越えられる人 (33.1%)	困難を乗り越えられる人 (32.5%)	人の役に立てる人 (30.8%)
5位	健康で体力に自信がある人 (29.7%)	社会のルールやマナーを守る人 (26.1%)	常に努力を惜しまない人 (26.5%)	たくさんの友だちがいる人 (26.2%) 困難を乗り越えられる人 (26.2%)

図Ⅱ－２－１



図Ⅱ－２－２



### Ⅱ－3 どのような大人になってほしいか

ここでは、「どのような大人になってほしいか」を大人に聞いたところ、いずれも6割以上が「人を思いやる心を持っている」を回答している。

また、保護者は、教員、学校評議員と比べ、「困難を乗り越えることができる」の割合が高くなっている。

一方、学校評議員は、「正義感や責任感がある」や「社会や公共の福祉に進んで貢献する」の割合が、保護者、教員と比べ高くなっている。

「人を思いやる心を持っている」は、教員が61.3%、保護者が66.7%、学校評議員が68.7%となっている。

「困難を乗り越えることができる」は、保護者が67.5%の割合で回答しているのに対し、教員が49.0%、学校評議員は42.5%となっており、保護者との間に差が見られる。

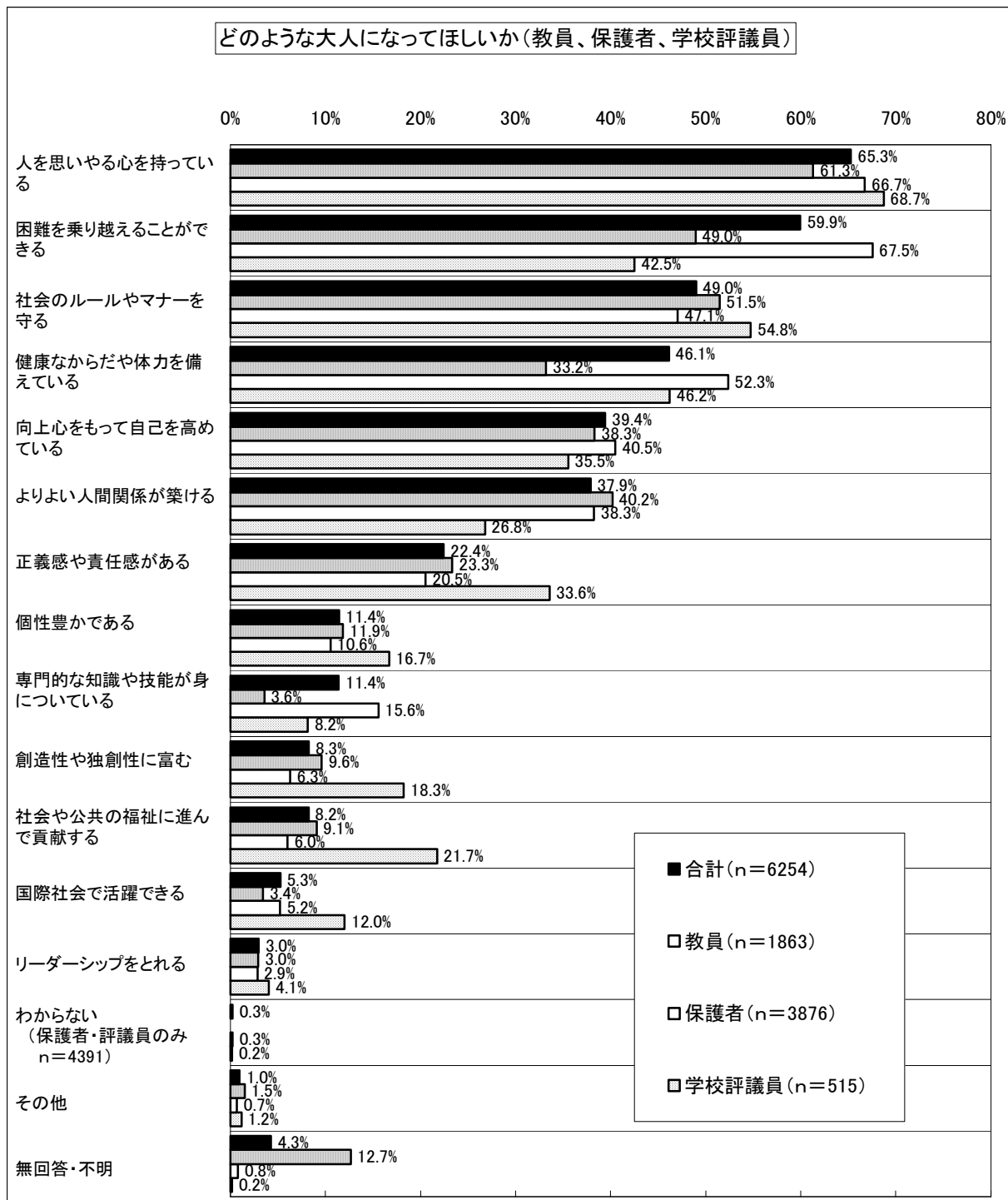
また、学校評議員が「正義感や責任感がある」(33.6%)や「社会や公共の福祉に進んで貢献する」(21.7%)を多く回答しているのに対し、教員は「正義感や責任感がある」(23.3%)や「社会や公共の福祉に進んで貢献する」(9.1%)、保護者は「正義感や責任感がある」(20.5%)や「社会や公共の福祉に進んで貢献する」(6.0%)となっており、学校評議員との間に差が見られる。

そのほか、「社会のルールやマナーを守る」については、いずれも5割程度の結果となっている。(表Ⅱ－3、図Ⅱ－3参照)

表Ⅱ－3 どのような大人になってほしいか（上位5項目）

	教員	保護者	学校評議員
1位	人を思いやる心を持っている (61.3%)	困難を乗り越えることができる (67.5%)	人を思いやる心を持っている (68.7%)
2位	社会のルールやマナーを守る (51.5%)	人を思いやる心を持っている (66.7%)	社会のルールやマナーを守る (54.8%)
3位	困難を乗り越えることができる (49.0%)	健康なからだや体力を備えている (52.3%)	健康なからだや体力を備えている (46.2%)
4位	よりよい人間関係が築ける (40.2%)	社会のルールやマナーを守る (47.1%)	困難を乗り越えることができる (42.5%)
5位	向上心をもって自己を高めている (38.3%)	向上心をもって自己を高めている (40.5%)	向上心をもって自己を高めている (35.5%)

図 II - 3



## Ⅱ－４ はたらくことについて

「はたらくことについてどのように考えているか」を子どもに聞いたところ、「働いて生きがいや、やりがいを得たい（働いて充実感や生きる喜びを感じたい）」と回答した割合が、小中高と学校段階が上がるにつれて増加している。

一方、「働いて自分の希望をかなえたい」を回答した割合については、逆に小中高と学校段階が上がるにつれて減少している。

「働いて生きがいや、やりがいを得たい（働いて充実感や生きる喜びを感じたい）」を選択した小学生が 19.2%、中学生が 31.3%、高校生が 46.8%となっており、やりがいを求める割合が小中高と学校段階が上がるにつれて共に増加している。

一方、「はたらく自分の夢をかなえたい」を回答した小学生が 52.5%に対し、「はたらく自分の希望をかなえたい」を回答した中学生は 32.8%、高校生が 22.6%となっており、小中高と学校段階が上がるにつれて「夢や希望をかなえるために働く」を回答した割合が減少している。

また、全体の中では高い割合ではないが、「できれば働きたくない」を回答した割合が、小学生 1.5%、中学生 2.4%、高校生 6.0%となっており、小中高と学校段階が上がるにつれて増加している。（図Ⅱ－４参照）

図Ⅱ－４

